

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月29日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200200
法人名	社会福祉法人 たちばな会
事業所名	グループホーム 福山の里
所在地	鹿児島県霧島市福山町福山775番地2 (電話) 0995-54-7070
自己評価作成日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前方には錦江湾と桜島、後方には古戦場跡のある山々、周りにはみかん畑などがある自然豊かな環境である。  
グループホームの隣には病院があり緊急時の対応が可能である事他に、2階3階は知的障害者のケアホーム、廊下伝いにサービス付き高齢者住宅やデイサービス、近隣には居宅介護支援事業所、障害者施設、美術館などがあり、災害時や緊急時の連携が可能である。  
入居している方は福山町の方が多く、近隣の方々も入居している為、入居者や家族、職員は顔なじみが多い。そのような事もあり公民会の運動会や夏祭り、地元の福山小学校と地区の合同運動会、小学校学習発表会、マラソン大会等の見学に行ったり、時々各自の墓参りに行き、その足で自宅に戻ったり、又は親族や友人宅へ遊びに行ったりして、なるべく多く外出し、入居前の生活リズムを少しでも崩さないようにしている。  
また、日中スタッフが決めたスケジュールで行動してもらうのではなく、利用者のその日の意向を最大限実現するようにしている。嗜好品についても特別な制限がある方以外、例えば酒類や喫煙は本人の意向に沿う形をとっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は同敷地内に隣接する母体医療法人を中心に、同事業所建物の2階3階は知的障害者ケアホームがあり、サービス付き高齢者住宅が廊下を隔てた向こう側にあり、同敷地に障害者施設や福祉関連施設があり、地域を支える医療福祉の総合グループであり、災害時の協力体制も構築できている。
- ・事業所の看護師が増員され、健康管理やかかりつけ医との連携も密で、適切な医療を受けられるように支援している。
- ・コロナ対策の中で、地域行事やホームの行事も自粛しているが、職員で工夫しホームの中での楽しみを検討している。
- ・利用者の行動を束縛せず見守りの中でのびのびと暮らせる環境に取り組んでいる。
- ・職員の連携がよく働きやすい職場を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践	理念は玄関に掲示しており、重要事項説明書に記載している。入職時には職員に説明し、勉強会において理念について考え、自分たちが行っているケアを振り返る時間を設けている。	重要事項説明書にも理念と基本方針を記載し玄関にも掲示している。入職時の研修や毎月の職員会議や勉強会を行い、年度末に振り返り、自己評価も行い、理念に沿った実践を目指している。	
		地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている			
2	2	○事業所と地域とのつきあい	小学校の卒業式や合同運動会等の学校行事や公民館夏祭り等の地域行事に参加している。家族と一緒に参加する時もある。月に1回公民館で地域のひろば事業を行っており交流を図っている。（現在はコロナ感染拡大蔓延防止のために全ての行事が中止になっている）	コロナの為、小学校の行事、公民館の夏祭りや敬老会、草払いは準備段階から参加していたが、自粛している。看護学生の実習生の受け入れは行っている。地域の見回りネットワークは市や地域包括支援センター・民生委員等と連携し実施している。	
		利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を生かした地域貢献	公民館等において認知症サポーター養成講座を行ったり、認知症に関する介護劇を行い認知症の啓蒙に努めている。	/	/
		事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み	<p>年6回開催し、毎回事業所の報告の他、委員と意見交換を行っている。委員からは小学校や地域の行事、支援が必要な住民の情報、入居者の対応や身体拘束防止に関する意見を得ており、それらはサービスに活かしたり、見守り等の住民支援を行っている（現在はコロナ感染拡大蔓延防止のために書類のみ各委員に配布するのみ）</p>	<p>2ヶ月毎に開催しているが、コロナ禍の為、市の了承を得て書面会議としている。資料を送付し意見を得ている。公民館での開催も検討している。運営推進委員の推薦により、看護師や介護士の入職や地域の高齢者の情報も得て市や関係機関につないでいる。出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
		<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>			
5	4	○市町村との連携	<p>市職員が運営推進会議委員という事もあり事業所の実情などを伝えて意見交換している。認知症サポーター養成講座や研修、しあわせ物産館や健康福祉祭り開催などを霧島市担当課等と協働して行っている（現在はコロナ感染拡大蔓延防止のために開催見送り）</p>	<p>市担当者とは窓口を訪問したり電話で事業所の実情等を伝え、意見や助言を貰っている。市職員が運営推進会議委員であり、電話や訪問しての報告や相談もできている。ネットでの研修を受けている。認知症サポーター養成講座や研修は協働して行っている。</p>	
		<p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践	<p>運営推進会議の中で身体拘束防止委員会を設け、年6回の委員会にて身体拘束の検証を行い勉強会も行っている。また職員も毎月行う勉強会において周知を図っている。施錠は行わず、自由に出入りしてもらっている。外出される際は各個人の状況に応じて付添いや見守りを行っている。</p>	<p>身体拘束防止委員会を開催している。拘束の検証を行い勉強会でも言葉の拘束や施錠を含め職員の共通理解ができている。個人の状況に応じて付き添いや見守り支援をしている。</p>	
		<p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底	身体拘束防止と同様、身体拘束防止委員会や年2～3回の職員勉強会において周知を図っている。	/	/
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用	職員は毎月行う施設内勉強会の中で成年後見制度等について周知を図っている。以前、成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用していた方もいた。必要と思われる方にはご家族等に入居時に説明している。	/	/
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。			
9		○契約に関する説明と納得	入居の相談があった時点でパンフレット、入居日の数日前には重要事項説明書などを渡し、事前に目を通してもらい、入居当日細かに説明を行っている。また後日、不明な点が出てきた際でも対応する事を伝えている。	/	/
		契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者からは日々の関りの中で要望等を聞き、家族等からは来訪時や電話やメール、ラインでやり取りをし、要望などを聞いている。要望は必要に応じて運営に反映させている（急逝した際すぐに帰省できない時について：県外在住の家族より）。	利用者には日常の会話の中や動作から把握できるように努めている。家族からは面会時や電話・メール・ラインで対応している。手紙を出して、近況報告時に意見や要望を聞き、運営に反映している。	/
		利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映	<p>月1回の職員会議において意見交換を行っている。若しくは管理者または主任が直接意見や相談を聞きその都度個別対応している。それらの中で必要に応じて法人に提案している（介護職員採用等）。</p>	<p>職員会議で意見等を聞いている。個人的に随時意見や要望を受けその都度アドバイスや対応をしている。職員募集についてや洗濯機購入等、またケアに関する事が多く、内容によって上層部に挙げて相談している。</p>	
		<p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>			
12		○就業環境の整備	<p>希望する休日は出来る限り勤務表に反映している。また資格取得に応じた手当を支給し、介護福祉士を取得したら希望に応じて正職員として再契約している。</p>	/	/
		<p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>			
13		○職員を育てる取り組み	<p>年度末に年間の振り返りを行い、それに沿って研修の年間計画を立て勤務年数、力量や希望に応じた研修に参加してもらうようにしている。月1回勉強会を行いスキルアップできる様に行っている。</p>	/	/
		<p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>			
14		○同業者との交流を通じた向上	<p>主に霧島市地域密着型事業者連合会や始良伊佐グループホーム協議会での研修を通じて介護職員同士積極的に親交を図るように働きかけている。</p>	/	/
		<p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係	入居前に自宅等に伺い、不安な事や困っている事など、要望を聞いている。また、少しでも早く慣れてもらう為に入居前になるべく本人にグループホームに来てもらうか自宅等に職員が伺うようにしている。		
		サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係	入居前に自宅等やグループホームにおいて家族が今まで行ってきた支援等について聞き、入居するにあたり分からない事や不安に思っている事、要望等を聞いて職員間で共有している。		
		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援	入居前に本人や家族、ケアマネージャー等からの情報を元に支援を始めている。必要があれば他職種（栄養士・理学療法士・地域包括支援センターなど）より情報を得た支援を行っている。		
		サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係	日常生活の中では、食事の後片付け（下膳や食器洗い）、洗濯物を干す・たたむなどを一緒に行う。又、入居者本人と一緒に地域行事に参加したり、入居者の要望を伺い、家族宅や知人宅に先方の了解を得て行き来している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に職員と家族と一緒に支えていく事を確認している。入居当初は、あえて頻回な面会を勧めている。面会時には、最近の状態を詳細にご説明し、ご家族に関する思いなどの言葉があった場合は、そのままご家族に伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のある公民会行事に参加したり、墓参りや親族や友人宅への送迎等の支援している。電話を掛けたり手紙を書いたりする支援も行っている。	コロナ禍で自粛しているが美容室や墓参りは同行している。ドライブで車窓より自宅や友人宅近くまでいたり、電話やメール・手紙で近況報告を行い馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	概ね月1回は、皆で一緒に外出や外食に行っていたが、コロナ禍もあり現在は中断している。安全に配慮しながら、週に数回のドライブや散歩は欠かさず、入居者間でコミュニケーションが取れるよう工夫し日常的に職員が間に入りフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても入院先や入居施設を職員が訪問したり、ご家族は地域住民代表として運営推進会議委員として残ってもらう方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との日頃の会話や行動、体調の変化、表情や思い等スタッフ同士で気付いた事を職員会議等で情報交換している。	表情やしぐさや声の調子で把握に努めている。生活の中で静かになった夜勤の時は話ができる。意思疎通の難しい時は、表情やしぐさや発語の有無・家族の情報などからスタッフ間で気づいたことを記録し、職員会議でも検討し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の思い等、情報を得て職員間で共有し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安心して過ごせるよう話をしたり、本人の出来る範囲でお手伝いの声掛けをして仕事をお願いしている。(洗濯物をたたむ等)		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族、医療機関からの情報を得て月1回の職員会議で情報交換をしている。モニタリングで当面の目標を設定。又、スタッフが行う事、実施状況等の共有をしている。	本人や家族、必要な関係者と話し合い、担当者会議を開き、主治医の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングは毎月介護記録の中で行い、書面評価は3ヶ月ごとに、見直しは6ヶ月または必要時にしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の会話や言葉、行動等をそのまま記録に残し、日々の業務の合間にスタッフ間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出希望や冠婚葬祭への外出付添支援等、特に現在新型コロナウイルス感染予防の観点からご家族が支援できない事があるためなるべく家族に代って支援を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方に運営推進委員になって頂き、近隣の一人暮らしの高齢者方やご夫婦など、情報交換を行い、状況把握を行っている。現在運営推進会議が行えないので時々地域住民宅に行き情報収集を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望される医療機関を受診している。受診結果は職員から家族に報告を行っている。（必要に応じてご家族と職員が同行し、受診結果を聞いて共有している。）	かかりつけ医は本人・家族の希望を大切にして受診支援している。受診は職員が同行して家族に報告している。緊急時はかかりつけ医の指示で対応して、母体医療機関と24時間医療連携を確保し、適切な医療を受けている。訪問看護は必要時に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員として利用者の体調管理を行い、介護職員から状態報告を受けて必要な対処法を指示したり、必要時は一緒に行ったり、必要時は受診している。看護師は24時間体制で介護職員からの電話に応じ、緊急時には夜間でも出勤するようにし、緊急性がある時は救急要請することもある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院スタッフへ利用者の普段の状態や入院に至るまでの経過を詳細に情報提供し、安心して入院治療が受けられるようにしている。退院時も看護サマリーで確認している。家族へも具体的に状態報告を行い、病院・家族・施設の三者連携に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化対応、看取りの指針について、本人家族に説明し、かかりつけ医との連携も密にしている。利用者の症状に応じた対処法をその都度、家族や介護職員に説明する事で協力が得られている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に説明をして同意書を貰っている。状況が変化するにつけ主治医が家族に説明し管理者が同席して家族の意向を確認している。看取りの対応についても柔軟な対応ができ、「重度化・看取り介護指針」を作成しチームで支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の対応マニュアルをもとに定期的に心肺蘇生法等の勉強会を行い、又、各利用者の急変時や事故を想定した対処法を確認している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災避難訓練及び自然災害避難訓練を同法人の他事業所と連携し各年2回行っている。訓練の際の避難誘導応援は近隣施設職員や上階に住む入居者が行っている。</p> <p>自然災害時は地域住民の避難先になっており、その様な際に使用する簡易担架、水や保存食、カセットコンロを準備している。</p>	<p>今年は消防署の指導はなく、2回自主訓練を、火災及び自然災害避難訓練を同法人の他事業所と連携して実施している。地域住民の参加は自粛している。訓練時の避難誘導は近隣施設職員等が行っている。自然災害時、事業所が近隣住民の避難所となっている。市から提供された担架20名分、水や米・保存食等を備蓄している。カセットコンロや自家発電機もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛けの仕方や日頃の接し方など職員同士で意識し気をつけている。特に、排泄介助や入浴介助等のお声掛けは、プライドやプライバシーを損ねる言い方をしないよう心掛けている。又、入居して間もない方は、同姓介助するなどの工夫をしている。	接遇に関する指針があり、勉強会を実施している。マニュアルがある。呼称はさん付けである。個々に合わせて、入浴介助や同性介助を行っている。入浴・排泄・入室時にはプライドやプライバシーを損ねない言葉掛けや羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望があればできる限り意向に添うよう努めている。食事もしょうゆ・ソース等お好みを聞いたり、飲み物も冷温を本人に決めてもらっている。外食時には希望する店に行けるように支援し、ご本人の思いや希望が出せるよう雰囲気づくりに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね、入居者様の生活リズムに合わせている。そのため起床や消灯時間は定めていない。食事の時間も、各人の起床時間や体調等に合わせている。入浴も本人の意向に沿って支援しているので、早朝入浴など時間も本人の希望時間に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時着替える際に衣服はなるべく本人に決めてもらっている。選択が難しい方は、職員で本人が好みそうな服を勧めている。女性の入居者様はお誕生日やお祝い事など希望があれば化粧することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて献立を決めたり、チマキ作りや餅つき、そば打ち等は一緒に行っている。誕生日にはケーキを作り皆で一緒に食べてお祝いしている。各々希望を聞き外出に行ったり、また食事形態も食べ易い様に献立にも工夫している。下膳や茶碗洗い、台ふきなど職員と一緒にしている。	利用者に嗜好を聞き、旬の食材で食事形態も個々に配慮して、職員が調理している。利用者も一緒に誕生日のケーキ・そば作りなど行っている。個々の希望で海鮮料理や外出・晩酌等、食事を楽しめるようにしている。台拭きや下膳等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後は、摂取量の記入を行っている。又、様々な飲み物を準備し、一人一人の好みの物を飲んで頂いたり、嚥下障害のある方はトロミ剤を使用したり、ゼリー状のものを摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や、食後席を立たれた際にお声掛けし、歯磨きやうがいを行ってもらっている。隔週で歯科医による訪問診療があり、口腔ケアの助言をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居前情報を収集し、入居後は排泄チェック表に記載し、排泄パターンを把握。日中は、全介助の方もトイレに座って自然な排泄が行えるようにしている。日中は全員布パンツとパッドを使用。パッドが不要になった方もいる。	チェック表があり、個々のパターンを把握し、看取りの人以外は全介助の人でも自立に向けてトイレでの排泄を支援している。基本はトイレでの排泄を目指している。日中は全員布パンツとパッド使用である。パッド使用から布パンツに改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	甘酒や、複数のジュースを準備し、水分を多く摂ってもらっている。希望に応じて、散歩やテレビを観ながらラジオ体操を行ったり家事作業していただき、身体を動かすようにしていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	気持ちよく入浴して頂くため、強制はせず、時間帯やその時の気分配慮し声掛けしている。又、ゆっくり入浴して頂けるように、好みに合わせて湯の温度を調整したり、希望の方には入浴剤も色々な香りを準備している。シャンプーも愛用の物をご使用して頂いている。又、ご希望があれば温泉にも行っている。	手すりの位置の違う浴槽が2つあり、7時～14時まで毎日いつでも入浴できる。湯の温度や入浴剤の希望、シャンプーも好みのものを使用し入浴を楽しんでいる。温泉に行く計画が、実行できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自室のテレビを観たり、休んだり、リビングの椅子やソファ等、思い思いに好きな場所で過ごして頂いている。夜は特に消灯時間を設けていないので、眠たくなるまでリビングで過ごされる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録簿に薬剤情報が添付されているので、いつでも見る事ができる。又、薬の変更があれば申し送りノートに詳しく記載し皆が情報を共有している。服薬後の体調の変化にも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の掃除機かけ、洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器の下膳や洗い物など、出来る範囲での役割を持っていただいている。気分転換として、趣味の塗り絵やカラオケを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設周辺の散歩や希望者があれば行きたい所へドライブに出掛けている。又、行きつけの理容室や知人宅への訪問、買い物等に出掛けられるよう支援している。家族や地域住民の協力を頂き、運動会や卒業式に参加したり（現在行事の参加は主催者側の要望により中止）、法事や結婚式等にも行けるよう支援している。	日常的に近隣の散歩をしたり外気浴をしている。自分で歩ける利用者は自由に散歩している。美容院の送迎や買い物・外食・墓参り等個々に職員とドライブしている。現在、地域行事は自粛している。家族との外出も状況で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々のお金の管理は職員が行っているが、家族の了解があれば入居者も現金を所持し、その範囲内で買い物ができるように同行し支払いなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている方は各自自由に電話をされている。時には電話をかける支援を行っておりいつでもやり取りできるように支援している。又、手紙のやり取りも自由にできるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、外の景色が眺められ朝日や夕日、青空や雪景色など季節の移ろいを感じられるようにしている。又、リビングは畳敷きにした事で、足の感触もフローリングとは異なり温かみを感じるよう工夫している。コロナ感染防止対策としては、意識的に空気の入替えに心がけ、除菌なども入念に行っている。室温湿度も適度に保たれるよう留意している。	玄関横にはベンチがあり、コロナ前は地域の人との交流の場であった。共用空間は明るく、加湿器つき空気清浄機が5台置かれ、花や作品が飾られ、ゆったりしている。広い畳部屋で廊下も広くカーペットを敷き詰め廊下の壁際にソファや椅子が置かれて居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多く配置して、どこでも座っていただけるように工夫している。特に廊下の椅子は、くつろいで座っておられ、職員は邪魔をしない程度に見守っている。又、暖簾やカーテンなどで外から見えない工夫もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた布団類や使用していた茶碗、湯呑み、その他愛着のある物、思い出深い物等、生き物以外は制限せずに持って来るようお願いしている。	ベッド・クローゼット・タンス・エアコン・加湿器が設置され、個々人が好みの寝具・鏡台・テレビ・電子レンジ・冷蔵庫・位牌・家族写真・馴染みの小物をそばに置き、くつろげる自由な居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室、トイレには手すりを設置。また手すりの代りに椅子を置く事で歩くことを支援、畳や絨毯などを敷く事で転倒によるケガのリスクを軽減している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない